



校長室だより

R4.7.1.号

岐阜市立東長良中学校

いじめについて考える日

令和元年7月3日、一人の尊い命が帰らぬものとなりました。その時から3年が過ぎようとしています。岐阜市の小中学校では、これまでずっと毎月3日にはいじめを見逃さない日、7月にはいじめについて考える日として、すべての小中学校の先生や児童生徒が、改めて命の尊さやいじめについて考えています。そこには、2度と同じ過ちを繰り返してはならないという強い思いが込められています。

本校では、この一人先輩の死を決して忘れることなく心に刻み、一人一人ができること、やるべきことを行っていかねばならないと誓い、命の尊さや仲間への思いやりについて考えていくことに取り組み始めました。

翌年となる令和2年度、全校の有志により「いじめ克服プロジェクトチーム」が結成され、7月3日の人権集会にて、いじめ克服に向かうため、『一人一人の居場所と幸せを大切にする』4つの校風「協・優・敬・怒」が産まれました。

それから3年、その思いは引き継がれ、東長良中学校の生徒の手によって、様々な活動が展開されています。4月からのHEROプロジェクトの様々な取組、円怒囲タイム、東郵便の発行など、すべてはそこが出发点です。

5月のいじめを見逃さない日の授業にあたっては、私から「いじめと」「いじり」についてのお話をしました。その後、皆さんからは、単に「いじめ」や「いじり」が良いとか悪いということだけではない、いろいろな考えを聞くことができました。そこには、一人一人の違いを受け入れ、相手の立場に立って考える皆さんの姿、すべての人の居場所と幸せを大切にすることとはどういうことかを考える姿がありました。まさに、「協・優・敬・怒」の4つの校風が位置付いている瞬間でした。

しかし、残念なことにいじめは「ゼロ」にはなりません。今週で終わった修学旅行、5月の友情合宿や立志合宿。どの学年もみんなが楽しめる、協力するという目標をたて、見事にやり抜きました。生徒会やHIROSも取り組んでいます。これだけ皆さんが様々な取り組みをしているにもかかわらず、本校の生徒全員が「いじめは良くないこと」とわかっているにもかかわらず、いじめはなくなりません。3年前、先輩が命をかけて残された私たちに伝えてくれたことは、どういったことなのでしょう。改めて問われています。

さて、今日は一年の中で最も強く、いじめについて考えてほしい日となります。これまでの皆さんの取り組みがさらに充実し、本当に東長良中学校生徒の居場所があり、幸せだと思えるよう、いじめについて正面から向き合っ、お互いの意見を出し合っ、考えてみてください。それが、東長良中学校の生徒の皆さんの幸せにつながります。先輩の死を決して忘れることなく、そして無駄にすることがないようにすることが残された私たちの使命です。